

# S部門

(肢体不自由教育部門)

文字・言語、文章の教材  
教員作成教材ガイド



平成28年度

東京都立鹿本学園

## 目次

- 「三択ボード」
- 「ジグソーリーディング」
- 「国語」
- 「音読カード」
- 「物と色をドッキング」
- 「かん字でビンゴ！」
- 「2文字合わせて、何と読む？」
- 「自分で予定表を完成させる」
- 「一つでできるもん」
- 「グルーガンを使ってなぞり書き」

# 三択ボード

～書見台を使って三択の学習を～

## 対象児童・生徒

・カード同士のマッチング  
→文字カードと絵カード  
の マッチング  
を課題にしている生徒

S 高2 普通学級

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

・同じ絵カードであること、文字カードの字が絵カードと関係していることがわかり、一つでも多くの言葉を理解する。

・書見台に三つの絵（文字）を入れるボードを置くことで、生徒が見やすいようにする。  
・上に一つの絵（文字）を入れるボードは、どっちもクリップ（両側にクリップがあり、曲げることができる）を使い、書見台のすぐ上に設置することで、生徒が見て選択やマッチングをしやすいようにする。

## 教材の使い方 (指導方法)

指導する生徒の実態と設定するねらいにより指導方法は若干変化がある。  
一例として

1. まず生徒に三つの絵カードを順番に見せて、下のボードに順番に入れる。
2. その後上のボードに入れる絵を生徒に見せて、ボードに入れる。
3. 「同じ絵はどれでしょう？」と生徒に質問する。  
生徒は絵を触ったり取ったり見たりすることで選ぶ。

絵カードと文字カード（英単語と音声）で行うこともできる。

# ジグソーリーディング ～英語の読む力を育てる～

## 対象児童・生徒

・英語の授業で教科書やプリント等を使用して学習している生徒

S 高1 BC学習グループ

準ずる

教育課程



## ねらい

・「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち「読む」力をつける。  
・ペアワークで生徒同士が教えあい、教科書の内容理解を深める。

①教科書本文を全て書く。  
②ラミネーターにかける  
③一文ずつ切っていく、切ったものを封筒に入れる。  
・ペアワークにして、生徒同士が教えあう姿もある。  
・タイマーや早押しボタンを使うことで、生徒は適度な緊張感をもって行うことができる。

## 教材の使い方 (指導方法)

・教科書の本文を一斉音読した後、文法や内容の解説をする。(活動前に行うこと)  
・教科書本文を1行ずつバラバラにした紙(ラミネーター加工あり)を配布する。配布する時は封筒に入れて配る。  
・タイムを設定し、「よーい、スタート」で封筒の中身をだして、生徒は並び替えをする。  
・1番最初にできた生徒は、早押しボタンを押して、教員に完成したことを知らせる。  
・生徒が並べ替えた文が教科書通りの順番になっているかチェックする。  
・OKなら「今日のリーディング1位」とする。  
(次は、ペアやグループで完成させる)



# 国語

～4コマ漫画で楽しく読解力を育む～

## 対象生徒

「読解は文字が多く、“苦手” “つまらない” “難しい” …」視角情報も生かし、苦手意識をもたず、楽しんで文章読解をしてほしいと考え、B学習グループの国語では4コマ漫画を教材としました。

S 高1 B学習グループ

知的障害を併せ有する生徒の教育課程



ジュン



ゴウ



ユカ



シーン①  
ダンボールからの声

## ねらい

- ・ あらすじや登場人物の心情等を正しく読解することで、読む力の向上を図る。
- ・ 登場人物のセリフを音読することで、表現力を高める。
- ・ 4コマ目のセリフを文脈に沿って考え、文にすることで、論理的思考力とともに書く力も育む。

- ・ 四コマ漫画はPCペンタブレットで作成した。物語のストーリーはオリジナルなものとした。
- ・ 新たに、1コマずつパワーポイントで提示できるようにした。
- ・ 漫画ということもあり、どの生徒も取り組みやすかったようで、4コマ目のセリフを熱心に考えていた。
- ・ セリフの音読では、音読が好きな生徒はもちろん、あまり進んで取り組もうとしない生徒も、積極的に挑戦していた。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ① 教員の音読を聞く。
- ② 登場人物の生徒の配役を決め、音読する。
- ③ 物語のあらすじがわかったところで、別紙プリント?の4コマ目「・・・」のセリフについて、何と言っているか、文脈から考え、文にする。
- ④ 書いた答えを発表し合う。

シーン①  
ジュンとユカとゴウの三人は、学校からの  
かえりにふしぎなできごとにあいいます。  
四コマ目のユカのセリフは「・・・」になっ  
ています。ユカのセリフをかんがえましょう。

# 音読カード（詩を読もう）

## 対象児童・生徒

- ・ひらがなやカタカナを読むことができる児童・生徒
- ・言葉でのコミュニケーションが可能で、繰り返し行うことで活動内容を理解することができる児童・生徒

S B学習グループ

知的障害を併せ有する生徒の



## ねらい

- ・文や語彙の理解度を確認する。
- ・読みの正確さを高める。

- ・文字がはっきりするように黒か紺の画用紙を使用した。文字の大きさ、行間に配慮して作成した。
- ・公文の文カードも難しい場合があったので、わかち書きに作り直した。この形にすると1人で読むことができ、自分で繰り返し練習することができた。

## 教材の使い方 (指導方法)

(最初のうちは)

- ①教員の音読を聞く。
- ②教員と1枚ずつ確認して読む。
- ③1人で読む。
- ④再度教員と確認して読む。

読みが慣れてきたら…

わかち書きのないカードで練習する。

DAISY図書を使用して練習する。など音読することへの苦手意識を緩和し、読書への関心を高めることができると良い。

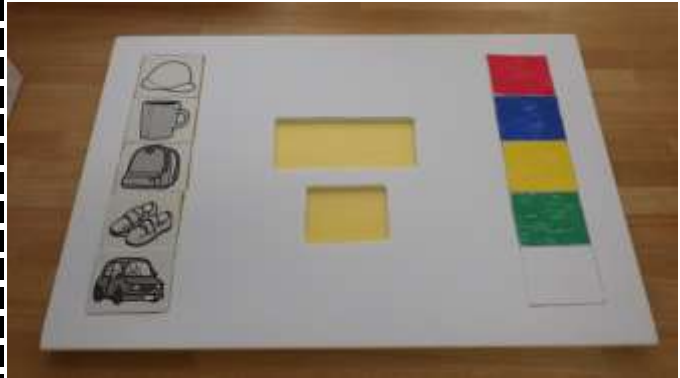
# 物と色をドッキング ～青いくるま、緑のコップ～

## 対象児童・生徒

- ・2枚の絵カードを見て、物の名称がほぼわかり、色や形の違いに気づく児童。
- ・動作絵カードやカルタを見て、「○が(△△を)××する」くらいの2語分程度の理解力がある児童。

S 小1 A②学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- ・色や物の名前を確実に覚える。
- ・色や形の属性を利用して、物をとらえられるようにする。

・100円ショップのカラーボード、片面が接着面(1cmマスの方眼入り)のボード等を使い、手軽に作れます。

・色と具体物の組み合わせにより、対象児童に合ったカードが作れます。

・色付きのカードを枠に並べることで、マトリックス(5×5)が完成するので、学習が進んだら、枠にはめ込む学習もできます。

## 教材の使い方 (指導方法)

※右枠に色、左枠に白黒の具体物を入れる。

色：赤・青・黄・緑・白  
具体物：コップ・くつ・くるま・かばん・ぼうし

①1対1対応で学習する。  
能



②左右の枠の中で2～5個の中からの選択が可能



# かん字でビンゴ！ ～楽しくかん字を復習しよう！～

## 対象児童・生徒

- ・ 準ずる教育または、ビンゴなど簡単なルールのあるゲームを、指導者の支援のもと楽しむことのできる児童生徒です。
- ・ 1名～大きな集団でも使用可能です。

S 小2 C学習グループ



## ねらい

- ・ 漢字の学習に対する、関心意欲を高める。
- ・ 簡単なルールのあるゲームを楽しむ。

## その他の活用例

- す
  - ・ 漢字以外にも、ひらがな、数字、マークなど指導する児童の実態に合ったものをビンゴにすることができます。
- 3
  - ・ 好きな食べものや、キャラクター、動物など児童の興味関心のあった内容にしてレクリエーションビンゴとして楽しむことで、集団の交流を深める活動にも活用できます。

## 教材の使い方 (指導方法)

①復習したい漢字を9つ選ぶ。(児童に選んで書いてもらってもよい)



②選ばれた9文字を見て 手元の9ます欄の好きなのところに書く。(ボードの場合は手元の漢字カードをます目に置く)

③9文字をビンゴボックスに入れ、児童が順番にとっていく。



④用紙(ボード)の文字に○をつける。

⑤2文字1列にそろったらリーチ、3文字1列にそろったらビンゴ！(全員ビンゴになるまで繰り返す)





# 2文字合わせて、なんと読む？ ～ひらがな拗音の読み～

## 対象児童・生徒

- ・ひらがな清音を読むことが可能。
- ・ちいさい「ゃ」「ゅ」「ょ」の存在を知り、拗音の読みを学習する児童。

S

B学習グループ

知的障害を併せ有する児童の教育過程



## ねらい

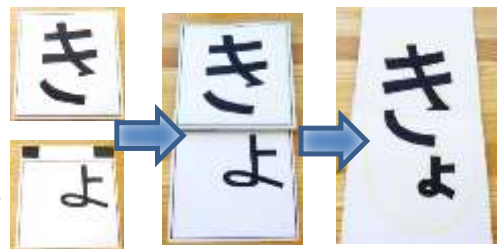
- ・拗音を、一つの文字のまとまりとしてとらえる。
- ・拗音を、正しく読む。

- ・「ゃ」「ゅ」「ょ」の文字カードは、文字の大きさを小さくした。
- ・無地の紙をはさむことで、文字の構成を記憶する。
- ・2枚の文字カードを磁石によってくっつけ、カードをめくるという操作的な活動によって、かな2文字が1拍になるイメージをもてるようにした。
- ・1拍を○で囲うことで、かたまりとして読むことを強調。

## 教材の使い方 (指導方法)

### ・【拗音の学習】

- ①清音の文字カード「き」を読む。
- ②ちいさい文字カードであること、文字カード「ゃ」を読む。
- ③2枚をくっつける。
- ④無地ページ、「きゃ」のページの順で示す。
- ⑤「きゃ」の読みを確認し、読む。



- ・【ゲーム遊び】「変身ゲーム」：清音の文字カード1枚と小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」の文字カード1枚を選ぶ。正しい拗音が書かれているページを選び、読む。
- 「パズルゲーム」：出題者が言った拗音の言葉（「きゃ」など）を構成するために、必要な文字カードを2枚見つける。

※ゲームでは、清音文字カードと拗音文字カードをあらかじめ分けておき、それぞれから1枚というルールでもわかりやすい。

# 「自分で予定表を完成させる」

## 対象児童・生徒

ひらがなやカタカナを読むことはできるが、書くことが苦手な児童

S 小3 A学習グループ

知的障害を併せ有する児童の教育課程

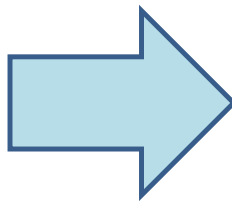
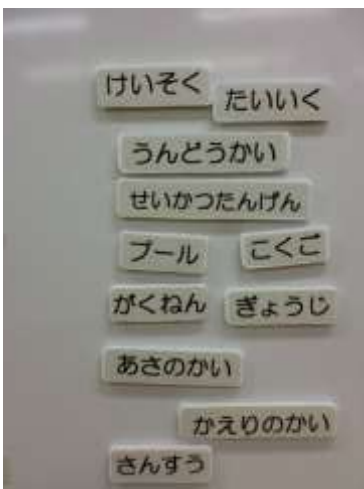


## ねらい

予定係りになった生徒に表を一人で完成できるように持ちやすく、張りやすいカードを用意する

教科名のカードを手で扱いやすい厚さにした。  
自信を持って一人でできるので、係りの自覚も促せて自分から係りの仕事をすすんで行えるようになった。

## 教材の使い方 (指導方法)



いろいろな教科名が貼ってあるエリアから、自分で取って、車いすで移動し時間割に

1	じりつかつどう
2	おんがく
3	こくご・さんすう
4	きゅうしょく
5	とくせつじかつ
6	

# 一つでできるもん

～一つのボードでマッチング、ふるい分け、選択、1対1対応等を～

## 対象児童・生徒

・目と手を協応させて型はめを入れようとする学習から、数の導入、合成・分解、ひらがなの導入まで、プレートの工夫次第でどんな課題の子供にも広く対象となります。

S 中3 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- ・マッチング : 色、図形、図柄、数図等。
- ・ふるい分け : 色
- ・数の導入 : 1対1対応、同数に分ける等。
- ・平仮名の導入 : 絵と文字合わせ等。
- ・他、学習進度を図るための基準に最適。

## その他

- ・型に入れやすいように、型を○にした。
- ・できるだけ一つのボード内に収まるように、上部にスティック置きを作った。
- ・チップやスティックが型に入ったことがわかりやすいように、ボードを厚めにして型が深くなっている。
- ・プレートをパウチシートにすることで、簡易に次の教材へと発展させてい

## 教材の使い方 (指導方法)

### ①合わせてみよう

- ・同じ絵柄や図形、色等を見つけて合わせます。



### ②同じ色に分けてみよう

- ・4色のパウチシートをセットし、同じ色のスティックをふるい分けしていきます。



### ③同じ数を置いてみよう

- ・数図のパウチシートをセットし、同じ数だけスティックを並べます。



### ④絵と平仮名合わせ

- ・絵柄のパウチシートをセットし、文字付きのシートと合わせていきます。



\*プレート、シートを工夫することで、一つのボードで無限の学習内容が広がります。



# グルーガンを使ってなぞり書きをしよう

## 対象児童・生徒

視覚障害のある生徒

S 中2 B学習グループ

知的障害を併せ有する生徒の教育課程



## ねらい

グルーガンでプリントに凸を作り、触りながら文字や図形を識別させ、線をひけるようにした。

視覚障害教育の特別支援学校にはレーズライターがあるが、当校にはないので、代わりグルーガンを使用した。

## 教材の使い方 (指導方法)

・英語の授業でアルファベットを教える際、生徒に凸を触らせ、線を認識させてからなぞり書きをする。